

日本語能力自己評価について（説明）

龍谷大学では、2015年度から交換留学生を対象としたプログラム「Japanese Experience Program in Kyoto」を開始しました。

このプログラムの目標は、日本滞在のメリットを生かして、①龍谷大学の内外でのさまざまな経験や②日本人始め、ほかの国の留学生との交流を通して日本語力を高めさまざまな国の社会や文化についての気づきを得ることです。そのために、インタビューやアンケート等日本語によるプロジェクト学習を取り入れたり、日本の社会文化とりわけ京都という立地を生かして祭りを始めとした伝統的な行事の見学等を取り入れたりしています。

授業例（JEP Kyoto3 クラス）

トピック	目標	活動
旅行・交通	<ul style="list-style-type: none"> 自分の国や出身地を紹介するとき、前もって準備してあれば、名所や名物などを、ある程度くわしく紹介することができる。 自分の町をある程度詳しく書いて紹介することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 町を紹介する語彙や表現を学び、自分が行ったことがある町や自分の町を紹介する。 自分の町について紹介のポスターを作る。
緊急事態	<ul style="list-style-type: none"> 災害や事故に遭った時、発音がはっきりしていれば説明や指示を聞いて理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練のお知らせを読んで、情報を得る。避難する際の注意事項を知る。 京都市市民防災センターを訪問して指示や説明を聞く。
学校生活	<ul style="list-style-type: none"> 国や地域による学校事情の違いを知り、ある程度詳しく自分の意見を言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> テキストを通して日本の教育について理解する。 龍大付属平安中高等学校のパンフレットを読んで内容を理解する。 龍大付属平安中高等学校の施設や授業を見学し、先生方と意見交換を行う。 見学が得られた気づきなどを発表する。
異文化	<ul style="list-style-type: none"> 日本へ来て驚いたこと、自分の国と違うことなどを考察して前もって準備してあれば、ある程度詳しいスピーチができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 祇園祭山鉾巡行を見物する。 伏見桃山地区の商店街でインタビューを行う。 異文化をテーマに5分程度のスピーチを行う。

また、このプログラムの日本語科目は、日本語の運用力を伸ばすことを重視して、上記の表のようなヨーロッパの外国語共通参照枠（Common European Framework of Reference）の

Can-do を利用して授業目標を立て、コースを実施しています。これにより、学生の日本語運用力について学生本人はもとより協定校の日本語担当の先生方を始め、関係者の方々と共有が可能になると考えます。さらに CEFR のレベルに準拠したクラス編成を行っています（比較的日本語力の高いクラスは学部の授業を受けることができます）。

クラス編成

JEP Kyoto では、CEFR に準拠した言語の熟達度を基準として、5 クラス（JEP2-JEP6）の編成を行っています。「聞くこと」「読むこと」「やり取り」「表現」「書くこと」などの技能別に到達目標を Can-do で設定しています。各クラスの大まかな Can-do を示したものが下の表です。

クラス別 Can-do 例

クラス	目標レベル	到達目標 Can-do
JEP6	B2. 2	幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができ、文法も正確で、その場にふさわしい丁寧さで、自然にコミュニケーションできる インタビューをなめらかに効果的に行い、相手の答えに応じて質問を変えて、より興味深い話を引き出すことができる。また、その内容を要約し、重要な点や関連する補足事項を加えて、記事を書くことができる 日本文化や他の学生の出身文化などの異文化と自文化を理解するためのいくつかの視点を身に付ける
JEP5	B2. 1	流暢に自然に会話することができる。自分にとって重要な点を強調し、関連事項を詳しく説明したり、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明したりして、主張を維持できる 自分の関心のある分野について、多くの情報源からの情報と論拠を統合して報告できる インタビューをし、相手の答えに応じて質問を変えて、より興味深い話を引き出すことができ、その内容の要点をまとめ、読み手を意識した記事を書くことができる 日本文化や他の学生の出身文化などの異文化と自文化を理解するためのいくつかの視点を身に付ける
JEP4	B1. 2	アンケート調査を実施し、結果をまとめて、グラフやデータを示しながら、簡単なプレゼンをすることができる。 短い記事やスピーチなどをまとめ、自分の意見をいうことができる。 また細かい質問に答えることができる。 さまざまなサイト情報などから自分に必要な情報を探し出すことができる。 簡単なインタビューをし、情報を確認したり、関連した質問をしたりし、内容をまとめて、記事を書くことができる。

		自分の文化と日本文化や他の国の文化の相違点や共通点を理解し、尊重することができる。
JEP3	B1. 1	準備してあればある程度くわしくまとまった発表ができる。 身近で興味のあることについて具体的な情報をやりとりすることができる。 短い簡単な文章なら読んで理解することができる。 関心のある話題や身近な内容を簡単な短い文章で書くことができる。 自分の文化と日本のさまざまな文化や他の国の文化の相違点や共通点を理解し異文化を尊重することができる。
JEP2	A2. 2	ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。
-	A2. 1	短くて身近なトピックを読んだり聞いたりして簡単な情報を得ることができる。 簡単なプレゼンテーションをしたり、簡単な文でレポートを書いたりすることができる。 簡単な日常会話や質問に答えることができる。

クラス判定はプレイスメントテストとインタビューを行い、総合的に判断します。技能別にレベルの差が生じる場合は、各技能のレベルに合ったクラスで授業を受けることができます。例えば、「読むこと」ではJEP3レベルと判定されたけれども、「話すこと」ではJEP4レベルと判定された場合は、それぞれのクラス（「読むこと」はJEP3、「話すこと」はJEP4）で授業を受けることができます。また、JEP4以上のクラスに在籍している学生は、学部で開講されている授業（日本人と一緒に）を受講することができます。